

# 第51回全国中学校ハンドボール大会

## 試合結果・戦評報告

競技日	令和4年8月19日(金)	試合番号	C5	回戦	1回戦
種別	中学生	会場	函館アリーナ サブアリーナ Cコート		

Aチーム			Bチーム		
宇城市立松橋中学校(熊本)			氷見市立十三中学校(富山)		
得点合計	小計		小計	得点合計	
30	16	前半	12	31	
	10	後半	14		
	1	第1延長前半	3		
	3	第1延長後半	2		
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7 m T C			

### 戦評

氷見十三中のスローオフで始めるとすぐに、松橋中は高い3:2:1DFからのマンツーマンを仕掛ける。十三中は、慌てて出したパスがカットされるなどミスが目立ったが、次第に落ち着いてボールを回し、フェイントからの攻撃で一進一退の攻防が続く。松橋中は、フォーメーションプレーを効果的に使いながら、ミドル、カットインと多彩な攻撃を展開していく。アクティブな3:2:1DFでパスコースを切る松橋中に対して、スペースをねばり強く埋める氷見十三中であつたが、20分過ぎに松橋中2番の連取により、16対12とリードを許し前半を終えた。

後半早々、松橋中に2名の退場者が出るが、GKの好守により点差をキープして6分を迎える。自分たちのスタイルを貫く氷見十三中は、3番を中心にじっくりと組み立て、4番右サイドと6番ポストを絡めた攻撃を展開。次第にディフェンスが下がり始めたことにより、バックプレイヤー2番のカットインが効果的に作用するなど、23分ついに25対25の同点に追いつく。その後、1点をずつを取り合い26対26で延長戦に。

延長戦は、お互いに1名ずつ退場者がいる状態でスタート。松橋中は、起点となる2選手にマンツーマンをつけるなど、足を使ったディフェンスを継続するが、セットプレーに持ち込まれるとディフェンスラインが下がり、氷見十三中にそこをうまくつかれる形となった。2点差で迎えた後半には、5番を中心に最後まで攻め続けた松橋中であつたが、1試合を通して、ねばり強く戦い抜いた氷見十三中の勝利となった。

記載者名

高田 智史